義理（ぎり）に行く

知り合いから訃報※を受けたとき、通夜・告別式の前に弔問をすることです。亡くなった方の家族に速やかに弔意を示し、悲嘆する相手方の心情に寄り添う意思を示す行いです。

※訃報＝人が亡くなった知らせのこと。

〈義理とは〉

昔から互いに助け合う関係で成り立っているムラ社会において、道徳や慣習の基準となっていました。義理には、親分子分関係、本家分家関係、親類関係などの個人的なものと、鎮守の祭礼、労働、葬式、火事などのムラ全体にかかわるものに分けられます。中でも葬式と火事における義理は、人間関係をよくする上で大切にされてきました。

これらの義理には、御祝儀や年中行事、わら屋根のふき替え、田植え、稲刈り等の農作業で果たしたり返されたりしました。今でも、義理返し（ぎりがえし）ということばが残っています。

〈こんなときに使います〉

昨日の夕方、私の家に自治会長さんがやってきました。何だかとても悲しい顔をしていたので、母が

「どうしたのですか？」

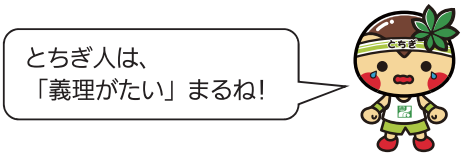
と尋ねると

「○○さんちのおばあちゃんが亡くなったんだよ・・・。」

と言いました。その知らせに母は大変驚いた様子でした。しばらくすると、母は黒っぽい服装に着替がえ、

「○○さんちに義理に行ってくるからね。○○さんちのおばあちゃんにはお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいだよ。」

と言って出かけました。

〈プラス１情報〉

訃報を告げられ、香典を供えることを「悔やみをつく」「義理を果たす」という地域もあります。